

## 通信添削課題提出期限等

### (1) 通信添削課題の配布時期

第1日目 研修初日に9回分を配布

### (2) 通信添削課題提出期限

提出日	科目番号/項目番号/項目名	提出期限/設定時期
第1回	2 介護における尊厳の保持・自立支援 ②自立に向けた介護	通学第3回目の当日までに提出
第2回	3 介護の基本 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全	通学第3回目の当日までに提出
第3回	4 介護福祉サービスの理解と医療の連携 ②医療との連携とリハビリテーション ③障害者総合支援制度及びその他制度	通学第4回目の当日までに提出
第4回	5 介護におけるコミュニケーション技術 ②介護におけるチームのコミュニケーション	通学第5回目の当日までに提出
第5回	6 老化の理解 ②高齢者と健康	通学第6回目の当日までに提出
第6回	7 認知症の理解 ③認知症に伴う心と体の変化と日常生活 ④家族への支援	通学第7回目の当日までに提出
第7回	8 障害の基礎的理解 ③家族の心理、かかわり支援の理解	通学第8回目の当日までに提出
第8回	9 心と体のしくみと生活支援技術Ⅱ ⑦移動・移乗に関連した心と体のしくみと自立に向けた介護	通学第9回目の当日までに提出
第9回	9 心と体のしくみと生活支援技術Ⅱ ⑧食事と関連した心と体のしくみと自立に向けた介護	通学第11回目の当日までに提出

## 添削指導及び面接指導の指導方法書

### 1 添削指導

#### (1) 添削指導の進め方

- ア) 指導の回数 9回
- イ) 課題の配布 第1日目(スクーリング)に全9回分を配布
- ウ) 回答の提出期限 指定通学日(スクーリング)の当日まで提出する。
- エ) 評価方法 提出された課題は、添削責任者の指導のもとに速やかに採点を行い、内容を評価し、控えを1部保存して次回通学時に受講者に返却する。
- オ) 認定基準 各回毎に6割以上の正答率をもって合格とする。
- カ) 認定基準に満たない受講者に対する対応  
基準をきたすまで添削指導を繰り返す。その場合の提出期限は個別に定めるが、「振り返り」の前日最終締切日とする。
- キ) 質問に対する回答 ファックス、またはEメールによる回答とする。

#### (2) 課題(レポート)(別紙として添付)

### 2 面接指導

#### 面接指導の講義・演習

科目(項目)名	内容	研修時間
<u>1 職務の理解</u> ① 多様なサービスと理解	【講義・演習】 ・介護職が働く現場にどのようなサービスがあるか学ぶ。 介護保険の在宅サービスや施設サービス、それ以外(障害等)のサービスにどんなものがあるか討議する。	3
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	【講義・演習】 ・多様な在宅・施設サービスの内容を理解し違いについて討議する。サービス提供までの一連の流れを知る。他の関係職種との役割や連携についてイメージを持ってもらう。	1
<u>2 介護における尊厳の保持・自立支援</u> ① 人権と尊厳を支える介護	【講義・演習】 事例を通して人権と尊厳について討議する。ICFの視点をアセスメントにどう結び付けるか、また自立支援とはどんなことを言うのか考える。	1.5
<u>3 介護の基本</u> ① 介護職の役割と多職種との連携	【講義・演習】 訪問介護と施設介護の違いを理解する。地域の在宅介護を支える包括ケアシステムをめぐる動きについて討議する。	1.5

<p>② 介護職の職業倫理</p>	<p><b>【講義・演習】</b>          根拠に基づく介護とはどんな介護か、また、介護職の安全を確保するために必要なことは何か。介護職の職業倫理について討議する。</p>	<p>1.5</p>
<p>4 介護・福祉サービスの理解と医療の連携          ① 介護保険制度</p>	<p><b>【講義・演習】</b>          介護保険制度の背景や動向を知り理念を理解する。介護保険の制度を支える財源について視聴覚教材を活用しながら理解する。医療との連携や高齢者がかかりやすい感染症について討議する。介護予防を推進するために地域支援事業とは何かについて学ぶ。</p>	<p>1.5</p>
<p>5 介護におけるコミュニケーション技術          ① 介護におけるコミュニケーション</p>	<p><b>【講義・演習】</b>          対人援助技術のコミュニケーションは重要である。コミュニケーションの目的・意義について学ぶ。また医療と介護の棲み分けについて具体例を通して考える。利用者や家族とのコミュニケーションのあり方について学ぶためロールプレイで疑似体験し利用者や家族の立場を理解する。</p>	<p>3</p>
<p>6 老化の理解          ① 老化に伴う心と体の変化と日常</p>	<p><b>【講義・演習】</b>          老化による心身の変化を理解する。高齢者に多い疾病や日常生活の留意点について学ぶ。視聴覚教材を活用し、各器官の役割と高齢による変化を理解する。高齢者の模擬体験から日常生活の不便さについて討議する</p>	<p>3</p>
<p>7 認知症の理解          ① 認知症を取り巻く状況</p>	<p><b>【講義・演習】</b>          認知症者の現状と今後の動向について知り、認知症のケアの視点を学ぶ。具体的対応は事例を通してロールプレイを実施する。</p>	<p>1.5</p>
<p>② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理</p>	<p><b>【講義・演習】</b>          視聴覚教材を活用しながら、認知症の種類と症状を学び対応について事例を通してデモンストレーションする。</p>	<p>1.5</p>

<p><b>8 障害の基礎的理解</b></p> <p>① 「障害」の基礎的理解</p>	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>障害福祉の基本理念について考える。ICF の考え方を理解する。障害者の福祉環境について検討する。</p>	<p>0.5</p>
<p>② 障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識</p>	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識を学ぶ。ICF の考え方を理解する。</p> <p>視聴覚障害者の体験としてブランドウォークを実施し体験をもとに地域福祉について討議する。</p>	<p>1</p>
<p><b>9 心と体のしくみと生活支援技術 I</b></p> <p>① 介護の基本的な考え方</p>	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>介護職に期待されているものは何か。また利用者主体の介護とは何か。法的根拠に基づく介護について考える。また、利用者のエンパワーメントを引き出すかかわり方について考える。さらに、生きがいと自己実現を援助する関わり方について討議する</p>	<p>3</p>
<p>② 介護に関する心のしくみの基礎的理解</p>	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>生活意欲を引き出すかかわりには利用者の生き方が大きく関与する。自己概念と生きがいは生活意欲に大きくかかわることを理解したうえで支援するが、高齢者の個別性を十分配慮する関わり方について討議する。</p>	<p>3</p>
<p>③ 介護に関する体のしくみの基礎的理解</p>	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>身体各部の名称や働きを学ぶ。高齢者は骨・関節疾患が要介護の原因疾患として多いことから関節等の機能や関節疾患の予防について学ぶ。利用者も家族もボディメカニクスの原理を活用することは痛みの軽減や腰痛等の予防につながるため視聴覚教材を用いて要領を学ぶ。具体的にボディメカニクスについて実践する。</p> <p><b>【講義・演習】</b></p> <p>神経の働きを、理解しやすく学ぶために視聴覚教材を活用。また、自律神経とかかわりの深い内部器官について知る。さらに、呼吸の機序について理解し呼吸数や脈拍数のとり方を実施する。</p>	<p>3</p> <p>1</p>

<p>9 心と体のしくみと生活支援技術Ⅱ</p> <p>④ 生活と家事</p>	<p>【講義・演習】</p> <p>事例を参考に自立生活を支える家事援助について考える。家事援助のポイント（金銭管理も含む）についても学ぶ。個人々のこれまでの生活の歴史や好みも考慮した家事援助のあり方について討議する。</p>	<p>3</p>
	<p>【演習】</p> <p>快適な生活支援について介助者の考える日常生活の快適さと、利用者の立場に立った快適さについて討議する。</p> <p>ダニ等の小生物の生態も知ったうえで掃除や洗濯等についてデモンストレーションをする。また、買い物介助についても考慮点について話し合う。</p>	<p>3</p>
<p>⑤ 快適な居住環境整備と介護</p>	<p>【講義・演習】</p> <p>快適な居住環境の基礎知識を学ぶ。それを妨げる要素について討議する。高齢者・障害者の環境整備として福祉用具、住宅改修等について知る。（視聴覚教材も活用）</p>	<p>3</p>
<p>⑥ 整容に関連した心と体のしくみと自立に向けた介護</p>	<p>【講義・演習】</p> <p>身支度を整える意義について考える。自立生活を支える身支度の介護技術について具体例を入れながら学ぶ。利用者の好みを把握し、生活の意欲を持たせる働きかけについて討議する。仮に、ベット上の生活時間が長くても、夜間と日中の衣類は変え、生活にメリハリをつけることを知る。</p>	<p>3</p>
	<p>【講義・演習】</p> <p>整容の支援技術の洗面、整髪、爪の手入れについてデモンストレーションで身につける。また片マヒ者や寝たきり者を想定して衣類の交換やシーツ交換を実地する。</p>	<p>3</p>
<p>⑦ 移動・移乗に関連した心と体のしくみと自立に向けた介護</p>	<p>【講義・演習】</p> <p>安全な移動・移乗時のポイントを知る。移動・移乗時に活用する福祉用具の特徴を知る。体位交換の目的やコツを視聴覚教材を用いて学ぶ。褥瘡の機序や予防について理解する。外出先の留意点について討議する。</p>	<p>3</p>

	<p><b>【演習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・褥瘡予防について実施指導</li> <li>・移動、移乗に関する福祉用具の活用</li> <li>・手すり、歩行器、杖の使い方デモンストレーション</li> </ul>	3
	<p><b>【実技】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす操作についてデモンストレーション。</li> <li>・安楽な体位の保持と体位交換についてデモンストレーションする。</li> </ul>	3
⑨ 食事に関連した心と体のしくみと自立に向けた介護	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>食事にに関する基礎知識を学んだあと、食事と関連する心と体のしくみについて視聴覚教材を用いて学ぶ。口腔ケアの目的と意義について討議する。</p>	3
	<p><b>【演習】</b></p> <p>本人の食事や味付け等の好みを把握する。食べるときの姿勢も誤嚥予防を考える。食事も特別配慮を要するもの（低塩分食、刻み食、ミキサー食等）について調理ポイントを体験する。とろみアップやゼリー食等を作り食事介助を体験する。美味しく食べる工夫（姿勢、環境、好み等）について討議・検討する。食事関連用具の活用。口腔ケアや入れ歯の管理について学ぶ。</p>	3
⑨ 入浴・清潔保持に関連した心と体のしくみと自立に向けた介護	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>なぜ入浴が必要か、入浴の目的や意義について知る。視聴覚教材を用いて入浴に関連したここや体のしくみについて学ぶ。</p> <p>入浴や清潔保持に関する福祉用具について学ぶ。入浴介助（部分浴・全身浴）についてデモンストレーションする。</p>	3
⑩ 排泄に関連した心と体のしくみと自立に向けた介護	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>排泄のメカニズムを知るとともに便の生成や性状について学ぶ。排泄に関連した心や体のしくみについて視聴覚教材を用いて学ぶ。また、人間の尊厳を一番考慮しなければならない排泄行為の介助について討議する。下痢や便秘時の対応や排泄環境についても学ぶ。</p>	3

	<p><b>【演習】</b></p> <p>片マヒ者や寝たきり者を想定した排泄の介助について移動のさせ方、おむつ、尿器、便器の扱い方についてデモンストレーションする。排泄関連用品の紹介。</p>	3
	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>排泄行為を阻害する要因は心の問題から体の機能的な要因まで多岐にわたるが、個々の疾病など背景要因を考える。</p> <p>片マヒの事例を想定してベットから車いすへの移動やおむつ介助、尿器・便器の介助をデモンストレーションする。排泄関連用具の使い方についてデモンストレーションする</p>	3
⑪ 睡眠に関連した心と体のしくみと自立に向けた介護	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>1日の約3分の1を占める睡眠の役割を知る。高齢者に不眠の訴えも多く、安眠の支援について考える。また、眠剤の服用方法についても話し合う。睡眠については個別性が高いが睡眠の生理と意義について視聴覚教材で学び、睡眠環境のあり方について討議する。</p>	3
⑫ 死に行く人に関連した心と体のしくみと終末期介護	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>人生の最期は人生の完成期と語っている臨床心理学者もいるが、死生観はそれぞれ個別性があり介護職としてどう利用者や家族を支えるかを考える。また、終末期の心身の変化の特徴を理解し、家族・本人を支える他の関係機関との連携・調整のしかたについて学ぶ。また、家族の悲しみに対する支援について話し合う。</p>	3
<p><b>9 心と体のしくみと生活支援</b></p> <p><b>技術Ⅲ</b></p> <p>⑬ 介護過程の基礎的理解</p>	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>本人が生活をしていくうえで課題となっている問題に対してアセスメントし、プランを作成・実行・評価することは支援者として重要なことである。</p> <p>介護過程の展開を具体的に学ぶため、ケース・スタディーで根拠に基づいた介護過程の実践を学ぶ。</p>	3
	<p><b>【講義・演習】</b></p> <p>高齢者と身体障害者の2事例を紹介しアセスメントするために討議する。(アセスメントの不足情報も加味する)</p>	3

⑭ 総合生活技術演習	<p><b>【演習事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心と体の力が発揮できない事例からその要因を分析し、介護過程を展開する。</li> <li>・高齢（要介護２程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）の事例の介護過程を作成する。</li> </ul> <p>２事例の介護過程を作成し介護過程の立て方について話し合う。</p>	4
<u>10 振り返り</u> ① 振り返り	<p><b>【演習】</b></p> <p>これまでの研修を振り返って感じたことや気づいたことを話しあう。さらに、介護職として求められていることは何かを考える。根拠に基づく介護の要点を理解している。</p>	1
② 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	<p><b>【講義】</b></p> <p>就業への備えと研修終了後における継続的な研修で自己研鑽することができる。</p> <p>研修を通じて学んだことを受講者自身が言葉として表出でき、今後も介護の最新情報に関心を持ち、就業における介護現場のイメージができその準備が整えられる。</p>	3